

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年3月22日

府中あおい幼稚園

1. 本園の教育目標

- いきいきした子ども
健康な心と体を育て、意欲的に遊びや活動に取り組む。感じたことや考えたことを素直に表現する。
- よく考え工夫する子ども
体験の中で文字や数に対する興味をもつ。
- がまん強くけじめのある子ども
体験の中で文字や数に対する興味をもつ。
- 善悪の判断ができ、集団のルールを守る。
○思いやりのある子ども
衣服の脱着、身の回りの片付けや持ち物の管理をする 自分を大切に、友達も大切に。
- 友達にやさしくできる子ども
身近な動植物に親しみをもつ。
- 人の話を聞き、自分の考えを言葉で伝える。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

心身共に健康でバランスの取れた発達を図るよう「よく考える力」「意欲」「思いやり」のある子どもを育てる。そのうえで今年度は特に「挨拶」を大事にした。

3. 評価項目の達成及び取り組む状況

(A：十分に成果があった B：成果があった C：少し成果があった D：成果がなかった)

評価項目	評価内容	自己評価		学校関係者評価	
		評価	取り組み状況	評価	意見等
1 教育活動の充実	・子どもにとって安全で安心して過ごす環境ができているか。 ・発達に沿った活動ができているか。	A	<p>幼児の姿や遊びの記録をもとに、教職員が定期的に話し合い、ねらいや内容の見直しを行った。</p> <p>コロナ禍ではできなかったイベントの再開し、保護者参加行事を実施した。</p> <p>自らすすんで挨拶をするように教職員がまず心がけた結果、子どもたちも挨拶を大事にしていた。</p> <p>【芝生活動】 芝生の植栽を子どもが自ら行うことで土に親しむことができた。</p> <p>芝生の上で運動をすることで、低年齢の子どもたちが転倒を恐れず思い切りよく遊ぶことができた。</p> <p>【畑活動】 通年で行った畑の活動により、野菜を育てることの大変さを知り、野菜を食べてみようという意欲が湧いた。また食育活動を行うことで野菜だけではなく、食べ物を大切にしようとする気持ちを育てるこ</p>	A	<p>コロナ禍ではできなかったイベントがコロナ禍以前と同じように楽しめた。</p> <p>挨拶に重きを置いた結果、登園降園時に元気な挨拶が見受けられた。</p> <p>【芝生活動】 子どもたちにとって、土が汚いものとは考えず、芝生の植栽を自ら行うことで土遊びが楽しいと感じるきっかけとなったようだった。芝生を植えた後に畑での活動を行ったことで、土への抵抗感が減ったように思える。子どもには芝生を育てるという概念がなかったかもしれないが、芝生は育てないと育たないということ意識するようになったようだ。また、緑の芝生の上で体を動かすことは心身ともに健康を促進した。</p> <p>【畑活動】 幼稚園児らが畑の作業を通じ、収穫のみならず種ま</p>

			<p>とにつながった。</p> <p>【リトミック】</p> <p>年間を通じて、リトミック教育を行ったことで、音への興味やリズム感が養うことができた。</p> <p>【英語】</p> <p>英語教育を一年通して行うことで、子どもたちが日本語とは違う言語があることを知り、英語をより知りたいという声が子どもたちのなかからあがった。</p>		<p>きから間引き草取りなどの諸作業も行い、農業の苦労を実感することができた。自ら手を加えて育て上げた野菜を誇らしげに抱え、家族に自慢する姿が印象的であった。これらの経験が、彼らの野菜嫌いの改善に寄与したと感じられるほど、食好みに変容をもたらした。加えて、子どもたちが野菜を残すことに抵抗を覚えるようになったことは、食に対する新たな理解と興味を示している。このような畑作業は、栄養観念や食習慣を育むばかりでなく、農業や食料生産に対する尊敬と理解を促進する良い機会となった。</p> <p>【リトミック】</p> <p>音楽に合わせて身体を動かすという時間をしっかりとって、全身運動ができたことは良かった。</p> <p>また以下のような声も聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつのまにか音感が身に付いていた。 ・リトミックの公開保育でとにかく楽しかった様子だった。 <p>【英語】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校の授業にも英語が導入されたので、幼稚園でも取り入れられていることはとても良い。英語ができる、できないではなく、外国人講師に教えてもらった経験自体が自信となる貴重な経験となった。 ・ただの小学校の先取りというわけではなく、英語に親しむ、英語を好きになるという感じがして良い。 ・子どもが英語を臆することなく使おうとしている姿勢が良い。 ・英語だけでなく、英語圏の文化も知ることができることは貴重な経験である。 	
2	環境整備・構成	安全を確保でき、保育が円滑にできるような環境になっているか。教職員の仕事効率化がされているか。	A	<p>通園バスに置き去り防止装置を設置し、園舎には監視カメラの数を増やした。通園バス等の安全管理を徹底した。</p> <p>ブランコの前の柵を新しくし、より安全に遊べるようにした。</p> <p>またプロジェクターを新しくしたことで、保育活動の幅が広がった。例えば、劇や伝統行事の紹介にプロジェクターを用いたことで子どもの興味や理解の向上につながった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・以前からバスの降車後はチェックや清掃をしていることは知っていたので置き去りの心配はなかったが、置き去り防止装置がついたことで更に安心感が増した。 ・今後も機器に過信せず、安全確認を徹底する動きも良い。 ・プロジェクターを劇で使用したことで情景が目に見え、暗転の時間も短くなり、また教職員の仕事効率化につながったことが評価される。
3	保育の質の向	教職員が学びの機会を	A	<p>本園職員は積極的に研修会に参加できるよう研修を周知し、職員は積極的に研修に参加した。</p>	A	<p>研修の内容が保育にいかされていた。</p> <p>限られた就業時間で最大限の保育、教育を子どもに</p>

上	得られる環境か。 保育内容がアップデートされているか。 子どもが中心の保育になっているか。	保護者限定アプリで保育活動の様子(おうちえんのドキュメンテーション)を配信し、幼稚園での保育の様子がよりわかるようになった。 インスタグラムでの定期的な配信により、幼稚園の透明性を確保し、子育ての場として周知ができた。 小学生との交流など就学前教育の推進をした。	提供していた。 アプリの活用やインスタグラムの配信により幼稚園の透明性が増し、信頼を更に深める結果につながった。 今後の課題として一部の保護者がドキュメンテーションの閲覧の仕方がわからなかったため、全保護者にドキュメンテーションの使用方法の周知ができたより良い。また配信頻度、配信内容についても今後の課題である。
---	---	---	--

4. 自己評価 (A:十分に成果があった B:成果があった C:少し成果があった D:成果がなかった)

評価	理由
A	3つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育を実践することができた。また、さらなる質の向上に向けた課題も明確になった。 今後はドキュメンテーションやインスタグラムなどの伝える内容や頻度などの検討および充実を図る。

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	園庭や室内の環境について話し合い、遊びが充実できるように幼児の発達にそった環境に取り組む。絵本を厳選し、子どもがより絵本に親しめる環境を整える。 ICT化を更に進め、教職員の仕事効率化及び就労環境を良くしていく。
2	安全管理	緊急事態発生に備えて、危機管理マニュアル等を教職員間で共通理解し、避難訓練をして意識の向上やマニュアルの改善を図る。
3	幼小接続	幼稚園と小学校と連携し「幼稚園の終わりまでに育ててほしい姿」を共有して教育の接続を図る。

6. 学校関係者評価委員会の総評価

幼稚園全体で子どもを育てる園であり、こどもの心や気持ちを最優先に考え、寄り添っています。個々の担任の先生と子ども1対1ではなく、複数の目で子どもをしっかり見守り、あたたかい教育を提供している。

今年度は園だより等のICT化やおうちえん(ドキュメンテーション)など、新しい取り組みを積極的に取り入れる姿勢が評価された。特におうちえんの活用で保護者が保育内容をよりわかりやすく把握し、子どもたちがのびのびと自己表現できる豊かな環境で過ごしている様子を家庭内でも共有できた。

具体的な保育活動では、1年の初めに行った土に触れる体験として、全園児で芝の植栽がありました。芝生を育てることで幼稚園の園庭をみんなで育てていくという気持ちが生まれました。また今年度は畑の活動を発展させ、食べものの大切さが学べたことが特に評価されている。英語教育では通年行うことで、英語だけでなく英語圏の文化を学べたこと、リトミックでは体を使った表現を大切に、自分を何かしらの方法で表現できる自信に繋がったことが好評であった。

幼稚園の教育目標に基づき、一人一人を大切に、きめ細かい保育が行われ、子どもを中心に園づくりが行われている。このような取り組みが今後も継続され、また更なる園の成長が期待される。